

T. Noro, S. Fukushima & T. Harada. 1967. The gas chromatography on the volatile oils of the plants belonged to *Heterotropa* genus (3). Yakugaku Zasshi 87: 1544-1547.

* * * *

オクエゾサイシンの地下部の精油成分の地理的変異を検討した。精油を構成するモノテルペン類とフェニルプロパン類との量的変異により、三つの群を識別できた。第1群；フェニルプロパン類が主成分であり、モノテルペン類は少ない。第2群；モノテルペン類が主成分であり、フェニルプロパン類は少ない。第3群；モノテルペン類とフェニルプロパン類との間には極端な量的差異がない。東北地方には第1群に属する検体が多く、北海道では三つの群が不規則に出現した。

質的な変異はモノテルペン類には認められず、全ての検体からユーカルボン等が検出された。一方、フェニルプロパン類の構成成分には質的および量的な変異がみられた。北海道にはメチルユーゲノールを主成分とする検体が存在したが、これは分布域の西南部の東北地方では認められなかった。東北地方の検体のほとんどのものではサフロールが主成分であった。フェニルプロパン類におけるこのような変異の傾向はウスバサイシンのそれとほぼ類似している。

□Graf, A.B.: *Tropica*, color cyclopedia of exotic plants and trees from tropics and subtropics. 1120 pp. 内カラープレート 928. 1978, V. Roehrs Co. U. S. A. ¥32,200. 同じ著者の *Exotica* のカラー版といったところ。ただし、少しくどい位の園芸品種の羅列のところもあった前著にくらべて、ずっと選択されすっきりとしている。しかし、色彩は少し弱いところがあるのは惜しいが、それでもどのページをあけても中々面白い。科の横文字のABC順、ただし食虫植物、針葉樹、シダ類、果樹はまとめられている。サボテン、ヤシ、ランなどが特に多い。*Exotica* よりも、見慣れぬ種類をさぐるのは便利と思う。

(前川文夫)

□創土社編：日本アルプスの花と蝶 445 pp. 内プレート 416. 1979, VI. 創土社。東京。¥38,000. 花と蝶とうたってあるが、大部分は高山植物である。大場達之、河野昭一、里見信生、清水建美、高橋秀男、豊国秀夫、鳴橋直弘、橋本竹二郎の八氏が高山植物を分担している。キク科からはじめ、針葉樹に終り、シダはふくめてないが、主に一種一ページに割りつけ、カラー写真を主として記述を附記してある。大版でしかもひろくとったので花のディテールがよくわかるし、ミスズランやコハクランなどの珍らしいものも載っている。高山帯の景観や高山蝶9種の生活史も見られるので、少し高いが一本を備えるとよいだろう。末尾に豊国・清水両氏の日本アルプスの高山植物が載っている。

(前川文夫)